

# 第14回 東北みらいDX・i-Construction 連絡調整会議を開催(R6.1.15)

東北地域の建設現場においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進により生産性の向上や、魅力ある建設現場を目指すことを目的とし、有識者、発注者及び建設業団体からなる会議を開催(東北地方整備局会議室&WEB会議システム併用)した。



【議事】①みちのくインフラDX 奨励賞の表彰について②令和5年度に実施した取組みの中間報告について③各会員からの情報提供④次年度に向けて意見交換テーマの抽出

## ◆出席者

- 【有識者】 東北大学大学院 高橋教授、皆川准教授、宮城大学 蒔苗教授
- 【国土交通省】 東北地方整備局
- 【自治体】 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
- 【業界団体】 東北建設業協会連合会、日本建設業連合会東北支部、日本埋立浚渫協会東北支部、日本建設機械施工協会東北支部、建設コンサルタツ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、日本建設機械インフラ協会東北協議会、日本道路建設業協会東北支部、建設電気技術協会、一般社団法人OCF東北部会

## 【議事】④次年度に向けて意見交換テーマの抽出

各会員から次年度以降に向けた意見交換テーマ(課題等)について提案と説明があり、事務局は以下のとおり、3つに仮分類して提示した。

- 分類1 『具体的な取り組みの提案があったテーマ』
- 分類2 『制度・基準に関する個別テーマ』
- 分類3 『その他“DX”に取り組むにあたって整理しなければならない事項』

事務局は取り組みの『集中化』、『体系化』についても議論するよう、次回(第15回)会議に向け、精査・整理を行い、改めて提案することとした。

## — 有識者からのコメント —

- ・新技術体験会は小学生から大学生と幅広く、非常に良い取組であり、高校生・大学生は就職の選択肢に、小中学生は親の理解があるよう取り組んでほしい。
- ・今の学生はデジタルネイティブを育てる観点で教育されているため、建設業界全体がこのままデジタル化に乗り遅れると担い手確保が難しくなってくるだろう。この観点から経営者層の教育を進めてほしい。
- ・ICTサポーター制度を中小企業等の人材育成に活用していければ今後ますます進んでいくのではないだろうか。
- ・地元の中小企業がICT施工やDX化に取り組めない原因を具体的に掘り下げ、精査した上でテーマを設定し、議論する必要がある。
- ・生産性向上につながる改革、方法等を議論し、ソフトウェアメーカーや建機メーカーへフィードバックする必要がある。
- ・スケールメリットが出てこないと考えられる事業でどうDXを推進していくのが普及の鍵を握っているだろう。
- ・DX、ICT施工、BIM/CIMが着実に進みつつあるが、地元中小企業への支援は必要。ICT関連のコストや機材は間接経費に分類されるため、行政側からの支援が必要となってくる。

## 【議事】①みちのくインフラDX 奨励賞の表彰について

事務局よりみちのくインフラDX奨励賞について説明  
⇒目的・選考、表彰式について

## 【議事】②東北地方整備局からの情報提供

1. ICT サポーター制度  
R5 活用状況とサポーター更新について説明
2. ICT 経営者セミナー  
R5 開催結果報告(岩手・秋田)
3. 担い手育成確保に向けた新技術体験学習会  
R5 開催状況、R6 取り組み方針

## 【議事】③各会員からの情報提供

各会員からの活動状況・取り組み状況の報告